

令和7年度 辰野町地域おこし協力隊 活動報告



町の文化拠点開発事業

担当/高木しず花

昨年度の活動概要

ドーナツショップ、雑貨販売、ワークスペース、ギャラリー、ブックカフェ
イベントスペースなど**文化的要素を多数複合した店舗・スペースの運営**を計画
同時に、**町案内の施設**として、辰野町を訪れた人に直接魅力を伝えていく。

下辰野商店街にある旧桂林堂を改装

内装デザインを町内在住デザイナーに依頼。
空間をセンスよく設えることにより、クリエイター
層が多く出入りする場所を目指す。
→クリエイター同士/町民とクリエイター等、普段
出会わない人と人の偶発的な出会いの機会を創出
し、**新たなコンテンツの創造を目指す**。

また、町内の方々が遠方から来るお客さんと交わる
ことで、**町民のシビックプライドを醸成**することも
目的としている。

トビチ美術館

地下をアーティスト小島有さんの展示に活用し、
改装中の店内を見てもらうことで広報活動とした。
また、インフォメーションを設置。地図を配布。
アーティストトーク開催。

改装・DIY作業

デザイン打ち合わせ、木材や資材の買い出し
壁貼り、床貼り、タイル施工、店内装飾
改装中の店舗を町内外の方に見てもらおう
町内の店舗需要ヒアリング、対話の機会となった。



© Tomoko Tsukahara



ロゴデザイン、印刷物の作成

自身で店舗ロゴをデザイン
ショップカードデザイン

キッチンカー営業

土曜日と日曜日に広報とヒアリングを
兼ね、キッチンカーでドーナツを販売



↑店舗ロゴ

ショップカード→



令和7年度活動報告

4月 営業日 計4日間

DIY作業
伊那保健所 各許可申請
4月27日 プレオープン
文化公園 目地Instagram運用開始

5月 営業日 計21日間

- 12日～19日 店内ブラッシュアップ作業
- 5月20日 グランドオープン

プレオープン期間にお客さんへヒアリングを実施。
そこから座席数や、営業時間を決定した。
本の仕入れ作業開始



▲プレオープン前日の様子

6月 営業日 計23日間

- ほたる祭り期間の土日は21時までカフェ営業。町内外の方々に新オープン店舗を広く知ってもらうことができた。昼のお客さんには、蛍祭りのパンフレットを積極的に配布。ほたる童謡公園までの道案内、駐車場やトイレの案内。
- 辰野町出身で、現在は別の場所に住んでいる方々が祭りに合わせて帰省してきた際、トビチ商店街の取り組みや、地域起こし協力隊の活動を直接説明することで、現在の辰野町を知ってもらう機会となった。
- 辰野町地域起こし協力隊起業支援補助金を活用し、エアコンと店舗前ベンチを設置。ミルクスチーマーとしてエスプレッソマシンを導入。提供時間の短縮に繋がった。



▲エアコンを設置

7月 営業日 計24日間

- 同補助金を活用し、地下にDIYで製作したテーブルを設置。既存の座席に15席追加され、店内計30席となった。
- プレオープン期間のヒアリング時に「朝から営業してほしい」という声があったため、8:30～オープンに変更。近隣飲食店は10時オープンが多く、それ以前から利用できることから、PC作業を主とするクリエイターの作業場として活用された。

地下イベントスペースとしての広報を開始。



▲DIYによって座席が増加

8月 営業日 計25日間

▪ 8月3日 [jujumoライブ&トーク] 来場者30名
普段、目地に来ない商店街のスナック界隈のお客さんがたくさん来店。同窓会のような雰囲気です。新たな寄り合いの場所となっていた。ライブを聴きにきた移住者との交流もあった。

▪ お盆期間には、首都圏から帰省してきた方々へ、辰野町の現状案内をすることができた。ランチ、お土産、移住者の現状、空き家を活用した事例等を伝え「現在実家を手放そうかどうか迷っている」という方と●と編集社をつなぐ。

▪ 8月15日[独立系出版トーク] 来場者25名

登壇者:徳谷柿次郎、奥田悠史、岡澤浩太郎

県内外から登壇者のフォロワーが多く来場し、イベントスペースとしての活用が広まった。地方の独立出版というテーマの特性柄、地方のクリエイターや出版に興味がある人が多く、町民クリエイターとの交流も見られた。また、辰野町のまちづくりに興味を持つ方も多く、街歩きの案内や協力隊の活動についてもたくさんの人に説明することができた。

当日、町外在住で辰野町出身の「辰野町で何か面白いことができなにか」と話しているという30代の5人組が偶然訪れ、イベントに参加していた赤羽孝太さんや、町内のデザイナーなどと繋がる。再度辰野で集まった際に、赤羽さんのアテンドで町内の視察を企画。

▪ 八ヶ岳クラフトフェア出展の木工作家が大阪から移住検討中とのことで、伊那に住む目地の常連さんの案内で辰野町を訪問。●と編集者の赤羽さんと繋ぎ、また空き家バンクのHPを案内。工房兼住宅を探しているとのことで、引き続き随時物件を案内。

▪ 奈良県げんきカレーで発祥の「みらいチケット」を引用し、小学生の一人利用に対して、大人がジュースチケットを代理購入できる「It's on me」開始。

9月 営業日 計21日間

▪ 地下のギャラリー利用とその広報を開始した。町内の刺繍ユニット、岡谷の人形作家、伊那のクラフト作家より連絡があり、随時案内と打ち合わせを進めた。

▪ 町内の切り絵を趣味でやっている方が作品を持ち込んでくれた

▪ 10月の商店街イベントへ参加するため、同商店街店舗「neu stand.」と打ち合わせを進める。展示企画「公園に置いていく」構想と広報。



▲中にメッセージが書けるジュースチケット

▲イベントフライヤー

▲イベントフライヤー

10月 営業日 計23日間

- 10月18日、19日商店街イベント「ヨリミチトビチ」内、店舗地下にて企画展「公園に置いていく」を開催。出展作品10点。町内の小学生から、近隣市町村の方、移住者などから、さまざまなジャンルの出展があり、展示を目的に店舗を訪れる人もいた。
- 新規開拓のため、会計100円引セール実施。
- 来月から開始する「トビチ美術館」のため、主催の●と編集社と打ち合わせ。昨年に引き続き、トビチ美術館のインフォメーションとなる。

11月 営業日 計23日間

- 11月1日よりトビチ美術館開催年末に向けて6組のアーティストが順次滞在製作。美術館インフォメーションを務める。また、安藤精麦にて常設の千田泰広によるインスタレーション「アナレンマ」も案内。
- 11月16日弁護士トークイベント 参加者12名
主催：インク舎(商店街「mit」)
- トビチ美術館ローカルアーティストの手塚ほたるさん(辰野町出身、現・伊那市地域起こし協力隊)の関係者が町内外からたくさん来てくれた。手塚さんご自身で町内の展示会場を案内されていた。
- 近隣市町村から店舗の移転相談があった。トビチ商店街や、辰野町の個人商店の活躍を知り、移転を検討中。●と編集社とつなぐ。ぜひ移転してほしいので、辰野町の人口を含めた暮らしの現状や、自身の店舗の運営資金や客層などを詳細に説明。翌月に空き物件の内見を実施予定。
- 小商講座参加者が店内で偶然再開。友人として同行していた画材インストラクターの方と出会い、店舗の窓ガラスを用いたイベントの企画が発足。来年度実施予定。

12月 営業日 計22日間

- トビチ美術館は平日・土日問わず、町内外から鑑賞者が訪れていた。最終アーティストと到着までマップが未完のため、オンライン上の地図を案内。また、アーティストの作品販売も開始し、インフォメーションだけでなく、ミュージアムショップ的な場所にもなった。
- 12月14日トビチ美術館に参加中のスペインのアーティスト、アドルフォ・セラによるドローイングワークショップ 参加者26名
近隣市町村より多くの方が参加。参加者の中には、アーティストやクラフト作家なども多く、それぞれ交流がなされ、また目地のギャラリーやワークショップスペースとしての有用性も知ってもらうことができた。



▲公園に置いていく展広告



▲トビチ美術館フライヤー



▲イベントフライヤー

2026 1月 営業日 計23日間

▪ GWやお盆に首都圏から帰省してくる方が多かったことから、正月は1月2日に営業開始。連休同様に県外在住の辰野町出身の方々が多く来店してくれた。テレビやネット記事で「トビチ商店街」というワードが広く知られ、さまざま変化していく様子が遠方にも伝わっているようで、辰野町に帰ってくるのが楽しみになったという話も聞くことができた。

▪ 1月25日ゆるつな むり絵会 参加者8名
定期企画として2ヶ月に1度実施予定。

▪ 1月25日から刺繍ユニット「綴」による個展開始
昨年2月に東京都から移住検討のため辰野を訪れた夫婦が、今年6月に移住。手仕事として持っていたシルクスクリーンと刺繍を組み合わせた作品を地下へ展示。目地からの提案として、展示会内で誰でも刺繍ができる体験コーナーを設置してもらった。滞在時間が伸び、また手を動かすことによりコミュニケーションが促進され、移住してきた夫婦と町内の方々の交流の場となった。また、移住先の総代さんや、ご近所さんも展示に訪れた。同時に展示を訪れた人同士の交流も多数見られ、賑わい創出の機会としてとても有意義だった。

2月 営業日 計20日間

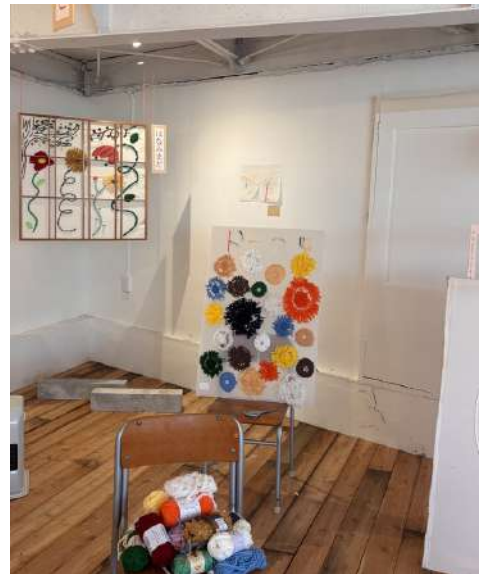
▪ 2月1日 文化公園 目地の元々の店舗、旧「桂林堂」のお孫さんが来店。桂林堂の頃の思い出や写真を見せてもらった。店内に写真を飾ったり、エピソードを収集したりして、商店街のアーカイブブックの制作を企画。また、たまたま居合わせた町内在住のデザイナーと繋がり「クリーニング店をもっと街にひらけた場所にしたい」という思いを聞き、これからどう関わっていけるかを検討している。

▪ 2月21日 小商講座受講生によるイベント開催
町内の飲食店から惣菜を受託販売する「おかずマルシェ」と、小商講座受講生コミュニティから計4件の出店。振る舞いの餅を提供。餅つき参加者18名。町内だけでなく、塩尻市、伊那市などから参加。元々のおかずマルシェのお客さんと、各出店者、目地のお客さんが交流する場となった。引き続き定期開催する予定。

▪ 文化公園 目地主催の土偶作りワークショップ
「GOOD!GOOD!DOGUU」2月より土曜定期開催
山梨県、松本市、岡谷市、伊那市などから毎回3組ほどの参加者があり、3月以降も継続予定

3月 営業日 計22日間(予定)

▪ 3月11日より 伊那市の割き織アーティスト
atelierみつまり個展「POOOP!」開催



▲綴個展「刺繍公園」の様子



▲体験コーナーで移住者の作家と交流



▲むり絵イベントの様子



▲土偶作りワークショップ

文化公園 目地の役割

▪ 町外からの視察対応について

協力隊サテライトオフィス誘致事業部の案内もあり、多くの県外企業・個人事業主・移住検討者が目地を訪れ、それぞれに町や空き家やキーパーソンの案内ができた。

また、突然辰野町を訪れた行政のまちづくり関係者が最初に訪れる場所として「まちの案内所」のような機能を果たしていたことも、訪れた人との会話からうかがうことができた。

青森県からの突然の視察の方は「駅を降りてここに来るまで、開いているお店もなく、誰もいなかったため、ここに辿り着けて、誰かいて本当によかった」とお話されていた。

(例)青森県、栃木県、茨城県、沖縄県、北海道、他首都圏等

▪ オープン当初、桂林堂を利用していた方々が懐かしがって入店してくれる方が多かった。町内に長く住む方々に、まちが賑わいを取り戻しつつある現状を伝えることができた。

▪ ドーナツ屋のリピーターさんが、購入ついでに展示を見て行ってくれることで、普段アートに触れない人たちが、作品を鑑賞したり、また作家と直接交流したりする機会となっていた。

▪ ドーナツ屋のリピーターさんが、購入ついでに展示を見て行ってくれることで、普段アートに触れない人たちが、作品を鑑賞したり、また作家と直接交流したりする機会となっていた。

▪ 文化的コミュニティスペースとして認知されつつある。ギャラリー利用の申し込みが増え、展示を訪れた人が「私もここで何かしたいです」と声をかけてくれる。

▪ クリエイターがパソコン作業や打ち合わせなどで店内に滞在することで、偶然そこに訪れた別のクリエイターをつなぐことができた。直接的なイベントやコンテンツの制作に至る事例はまだないが、機会の増加による新たな商品の生産やコンテンツの創造を望められる。

▪ 「商店街に長居してお喋りする場所が欲しい」という40～70代女性の声を参考に、座席を多く設置したところ、平日の午後を中心に女性客の利用が多くあり、商店街の賑わい創出の場所となっている。

▪ これまでトビチ商店街やトビチ美術館、辰野町の空き家相談等、辰野町に来た際に町民に直接コミットできる場所がなかった。目地のカウンターに協力隊が常駐することにより、キーマンの紹介や空き家バンクの案内などがスムーズになった。

町案内の件数(トビチ美術館案内含む)

	11月	12月	R7 1月	2月
件数	52	84	28	17

※11月は19日以降の記録

**トビチ美術館開催期間(11/1～12/28)来客数が月あたり約50組増加。
→アートファンは「そこでしか体験できない」を求めて辰野町へ足を運ぶ**

来年度の活動計画

- 4月 ゼンタングル展示ワークショップ
町内在住アーティストと諏訪地域在住アーティストの3人展
- 5月 GW期間に文化公園 目地オリジナル展示企画「公園に置いていく」展 第2回開催
SHUSHUに予告を掲載することで、より多くの参加者を集う。
帰省のタイミングに開催することで、町外の方々にも辰野の人の魅力を伝える
- 6月 ほたる祭り期間中に岡谷市在住アーティストnunoito asobi 個展開催
初日には山梨のアーティストとライブペイントイベントを開催予定
夜にもワークショップを開催。ほたる祭り来場者にアートを楽しんでもらう。
- 下半期は辰野町と横浜市で2拠点生活をしている劇作家と演劇のイベントを企画予定
- 引き続き、全国の美術館、博物館で展示やキュレーションのについての視察を行う。
同時にブックカフェとしての内容を充実させるため「独立系書店」の視察も行う。